

パーソナル・コンピュータについて

1．自分のパソコンを持つとう

自分専用のパソコンをもつことを強く勧めます。これまでの経験からいって、パソコンをもっている人ともっていない人との情報処理能力の差は歴然としており、それを考えると多少の出費などケチっている暇などありません。もしも金銭的な余裕があるならプリンターも一緒に求めた方がよいでしょう。目先の誘惑にとらわれることなく、自分の将来の姿を生き生きと思いめぐらし、有意義な人生を築くためにアルバイトの稼ぎを大胆に投資しなさい。これが実践的な経営学です。

大学のパソコンが使えるではないか、という学生もおそらくいることでしょう。大学の設備を存分に使う意志を持ち、毎日のように大学に通うつもりなら、それはそれでよいのです。しかし、これまでの私の個人的な観察からいえることは、総じて自分のパソコンを持っている人の方が、大学のパソコンもよく利用する傾向にあり、自分のパソコンを持っていない人は大学のパソコン・ルームからも遠ざかる傾向がある、ということなのです。

このセミナーでは、パソコンの操作技術についてアドバイスはしますが、それを手取り足取り教えるようなことはいたしません。しかし、心配には及びません。パソコンというのは、ちょっと高価な文房具なのであって、マニュアルをみながら遊んでいるうちに自然とマスターしてしまいます。電子メールの送受信、ワープロや表計算、プレゼンテーション・ツールの使い方やウェブページの作成などは簡単に自学自習できますし、この程度の技能があればさしあたり不自由することはないでしょう。

2．重要なアドバイス

数年前からパソコンの初歩を教える授業が必修科目として用意されましたが、例年、私は産大の『コンピュータガイド』をみて自分でマスターするよう学生にアドバイスしてきました。その方がパソコン技能の上達速度が格段に速いからです。電子メールもブラウザの使い方もすぐにマスターしてしまいました。ところが、大学で授業が用意されてからというもの、学生のパソコン技能の上達速度は“著しく”遅くなりました。これが一体なぜなのかは敢えて問いません。要はパソコンで遊ぶことです。授業があるうとなかろうと、『ガイド』について、どんどん先に進みなさい。だいたいパソコンなど「ちょっと高価な文房具」であって、本来習うようなものではなく、慣れるものです。鉛筆や消しゴムにちょっと毛が生えた程度の代物なのですから。

3．参考文献

東郷雄二『独学の技術』ちくま新書, 2002.